好結果を得た ビートトップ・サイレージの給与試験

このほど酪農試験場で、ビートトップの生、乾燥による利用法に次いで、サイレージとしての飼料化試験の結果を発表したが、それによると乳牛に給与した場合、牛体、乳質、乳量ともに異常は認められず、サイレージとしても充分利用できることがわかった。

給与量が1日42kg（体重の7%）以上になると軟便などが現われ始め、36kgが一応限界量であることがわかった。36kg程度では、1週間連続給与しても障害はなく乳量、乳質（酸度）、脂肪率に低下をみなかった。

なお、試験場ではビートトップ、サイレージを与えるときの注意として次の点を挙げている。

(1) ビートにはしゅう酸を多く含んでいるので、

炭酸カルシウムを給与サイレージの0.3%程度加えること。

- (2) サイレージのほかにも乾草や牧草類などを与えるようにする。
- (3) 夏はとくにカビが生えないようにサイロから取り出したらすぐ与える。
- (4) 排便の状態に注意しながら与えることなどである。